

現代 10代

現代 第26巻10号
1992年10月1日発行(毎月1回1日発行)
昭和42年1月10日 第3種郵便物認可

特集 日本人と朝鮮人 不信とタブーの
梅棹忠夫 vs. 司馬遼太郎 「民族の原像、国家のかたち」



現代

1992年10月号(目次)

28 118 68 244 58 48 40

PART 1

特集 日本人と朝鮮人 不信とタブーの
海峡を越えて

中韓国交樹立は
何をもたらすか

急転回！東アジア新地図の読み方

国分良成 間部洋一
(慶応大教授) (日韓経済研究センター所長)

20兆円の野望
をスクープ！

日韓トンネルに賭ける文鮮明の「見果てぬ夢」

松田賢弥
(ルポライター)

「加耶」の発見
と古代史の謎

倭人は半島より来たる

江上波夫 金達寿 西谷正
(実大名誉教授) (作家) (九州大教授)

世代交替の行方
と「最後の選択」

揺れる「金日成王朝」内憂外患の嵐

金昌順
(北韓研究所所長)

ソウル現地取材
大統領選の焦点

新実力者・金泳三の金脈と人脈

五島隆夫
(ジャーナリスト)

ロシアの破局と西側の驕り

エリツィン革命の蜃気楼——そして誰も勝たなかった

岩上安身
(フタフタシン作家)

ビッグ対論II「次の世紀」を看破する

梅棹忠夫
司馬遼太郎

(国立民族学博物館長)
(作家)

民族の原像、国家のかたち

No. 126 (1/6)

20兆円の野望をスクープ！

日韓トンネルに賭ける

文鮮明の

「見果てぬ夢」

統一教会関係団体が佐賀県です
てに試掘開始 超ビッグ・プロジェクトに唾をつけた狙いとは!!

まうだ けんや
松田賢弥
(ルポライター)



九州・佐賀県の唐津駅からタクシーで三十分弱、はるかに朝鮮半島をへだて、玄界灘に面した港に着く。海を背に南側の小高い山に入ると、ほどなく「名護屋調査斜坑現場 極東開発(株)」と

大書された立て看板が目についた。工事現場のほぼ中央に長さ五十メートルのレールが敷かれている。レールは山の中腹を掘り崩したトンネルの中へ

傾斜しながら入っていく。トンネルの入口は高さ五・五メートル、幅六メートル。近づいて目をこらすと、かなりの深さまで掘り込まれていることがわかる。

作業事務所の入口付近に貼られた「緊急時連絡表」には発注・施工者の極東開発の他、国際ハイウェイ建設事業団、日韓トンネル研究会、鎮西町役場などの電話番号が記されている。旧盆間近のためか、働いているのは五人ほどしかない。シヨベルカーの運転手に声をかけてみた。

「レールの先に新しいウインチ(巻き上げ機械)をつけるためにウインチ小屋を作っているところ……いまは穴を掘っていないので現場の作業員は少ないんだ」

人口約八千人で年々過疎化をたどる、佐賀県東松浦郡鎮西町につくられた調査斜坑のトンネルは何をするためのものなのか。唐津市に本社がある極東開発に尋ねると、「上のほうに聞いてくれ」と素っ気ない返事だった。上

とはどうやら国際ハイウェイ建設事業団や日韓トンネル研究会をさすらしい。が、どちらも所在地は東京。とりあえず町役場に向かった。柴田憲一総務課長の話はこうだ。

「町で聞いているところでは、いま四百メートル掘っているところで中断しているようです。この工事には町は直接関係していないが、ただ起工当初、いろいろと問い合わせの電話も多かったものですから、五年ほど前から極東開発のほうから、月末にどのくらいまで作業が進んでいるのかを伝えてもらうようにしていたんです。そこで聞いている以上のこととは知らないですね、町としては……」

どうも要領を得ない。が、ある程度のことにはわかった。この調査斜坑というトンネルは日本と韓国をつなぐ「日韓トンネル」の工事のためのもので、一九八六年十月に起工式が行われた。主体は国際ハイウェイ建設事業団だった。

統一教会とほぼ「一体」

この国際ハイウェイ建設事業団や日韓トンネル研究会とはどんな団体なのか。調べてみると二つとも東京・渋谷区宇田川町の同じビル内に事務所がある。ビルの一階には表にシヨウ・ウィンドウのような展示場が設けられている。そこにはハイウェイやトンネルなどを盛り込んだ「国際ハイウェイ構想」の「未来図」が描かれている。

しかも、この二つの団体は世界基督教統一神霊協会(統一教会)と密接な関係にあるらしい。宇田川町のビルは統一教会の本部とも目と鼻の先だ。

「国際ハイウェイ」「日韓トンネル」という言葉自体、一般には馴染みがないが、十年ほど前、統一教会の教祖・文鮮明がそのような構想のアドバルーンを上げたことがあった。当時、「文鮮明の夢物語。そんな大事業を一教団にできるはずがない」と、ほとんど相手にされず、いつの間にか立ち消えに

なっていたものと思われていた。しかし、実は調査工事とはいえ、かなり前から実際に着手されていたのである。

当初の文鮮明の構想は、

「人類一族という理想を実現する方向で、東洋と西洋の諸国を連絡するのが国際ハイウェイの構想である。一つの計画は、第一段階で日本・韓国・中国を連絡し、中国本土、南アジア、中国近東を通過してソ連に至るといっても、世界の人々を一つに結ぶ高速輸送のネットワークをつくり、世界の至る所に一日以内で往復できるようにすれば、それだけ地上天国の実現は早い」と、かなり茫漠たるものだった。それを補なう形で練られたのが日韓トンネルだった。その調査研究のために八年、「統一教会の外郭団体」(日韓トンネル研究会・稲田昭俊事務局長)として国際ハイウェイ建設事業団が設立される。八三年には事業団の諮問機関として、技術者らを集めた日韓トンネル研究会が設立された。

「日韓トンネル研究」というトンネル研究会の機関誌には、さまざまな角度からの技術面での論文が掲載されているが、毎号必ず文鮮明による「メッセージ」が巻頭近くに置かれている。

統一教会が深くかかわっていることは人事面でも裏づけられ、国際ハイウェイ建設事業団前会長で現在は名誉会長をつとめる久保木修己は、五十九年に日本で統一教会が設立されて以後二十年以上にわたり教会の会長の座にあった。そして事業団現会長の神山茂は統一教会の現会長でもある。また、事業団と日韓トンネル研究会の理事長を兼任する梶栗玄太郎はこれまで統一教会の「友好団体」国際勝共連合理事長などの要職を経ていた。さらに、佐賀の極東開発は「統一教会が大株主」（国際ハイウェイ建設事業団・大江益夫専務理事）である。つまり、日韓トンネルに関わっている団体や建設会社は統一教会とほとんど「一体」となっている関係にあるのである。

町長への抗議電話も

鎮西町の吉田健三町長はそのことを最初には知らなかった。七年前、「日韓トンネルの起工式」に出席してほしい」と極東開発の社長から頼まれた吉田町長は気やすく引き受けた。豊臣秀吉が朝鮮出兵の根拠地にした名護屋城跡にほど近い現場に行くといふ段に座らせられ、しかもその場で挨拶までさせられた。「それが後に『世界日報』だったと思うが、写真入りで載ったんです」（吉田町長）。その後、全国からジャンジャンと問合せの電話が入った。吉田町長も直接、三重県の女性からの電話を受けた。その内容はこうだった。「子供が大学に入ったのに、大学に行かないで統一教会のほうばかりに行っている。で、働いてはそのお金を自分のことに使うのではなく、教会のほうに寄付している。子供が言うには、いま日韓の間にトンネルを掘っていて、間もなく開通する。そうしたら、それを

通って韓国から、えらい方が来られると言っているんですが、どうだろうか」また、吉田町長はトンネルの話を聞き込んだ長崎の住民から、「このバカタレ町長が！」と電話で罵声をあびせられたこともあった。彼はいまいこう言う。

「よく車やバスで信者さんが見に来られていたようです。私は宗教のほうはどうも苦手なのですが、日韓のトンネルが国としてつくられるようになるなら賛成ですけれどもね、町のためにも……ただその工事に対する積極的な推進派というわけではありません。地域の活力になればと思っていますだけです」

町民の一人はこう語る。

「最初は、トンネルができたら観光客が集まってきたらいいだろうと……。しかし、統一教会の噂が広まってくるにつれ、『子供が入信したら……』とかみんな話している。不安なんです。いまだでは町民は現場の近くにも行きま

せん」

このように漁業と農業でひっそりと生計をたてている町に波風を立てながらも事業は進められた。「世界日報」日曜版(九二年六月二十八日付)によると鎮西町の調査斜坑トンネルは八十六年十一月から一年間、第一期工事が行われ、熊谷組と三井建設、極東開発のジョイント・ベンチャー(共同企業体)で二百メートル掘削。その後、八八年の第二期工事で極東開発が二百メートル掘削し、今年十月から第三期工事が開始され、さらに二百メートル掘削される予定だ。また、現在、トンネルのコースは鎮西町から老岐―対馬―巨済島(全長

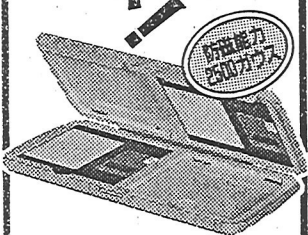
三百五十キロ)の他、計三通りの案が出ているという。

百億円の九割は統一教会から

また国際ハイウェイ建設事業団の機関紙「本郷路」(九二年七月一日号)によれば、八二年六月に北九州で地表調査、八三年、日韓トンネル海域部の環境調査、八四年六月、老岐でのボーリング調査、同九月、対馬でのボーリング調査、八八年十月、韓国・巨済島でのボーリング調査、八九年四月、中国で京丹(北京―丹東)国際ハイウェイ計画準備委員会の設立、同五月、中国ハイウェイの予備調査、などと、かなり

資金を投入して事業を続けてきた。ハイウェイ事業団もトンネル研究会も任意団体。研究会は会員組織になっていて、運営は会費でまかなっている。その会費は個人会員一口五千元、法人会員は一口五万円、内訳は個人一千人、法人二十四社が参加しています。どんな企業が参加しているのかは申し上げられないが、大手ゼネコンはだいたい入っていると認めてきた。が、トンネルの本工事ならまだしも、研究段階の事業に大手ゼネコンが巨額の資金を投入するとは考えにくい。いったい資金はどう捻出したのか。

強力防磁加工で「磁気」をシャットアウト！



3.5"用
フロッピーケース IO シリーズ
(C-3504) ● 価格: 1個2,400円(税別) ● 規格: 3.5"用 ● 収容量: 4枚 ● サイズ: 縦220×横113×幅19mm ● 表紙: ABS樹脂 ● 色: ブラック・ブルー・バイオレット・オリーブ・ローズピンク・オフホワイト ● インデックスシール付。
※5枚用、12枚用タイプもあります。

(株) LIHIT LAB.

パンフレットのご請求はおハガキで
本社 〒540 大阪市中央区農人橋1-1-22
企画広報部 ☎06(946)2531

これについて国際ハイウェイ建設事業団・大江益夫専務理事はこう語った。

「これまでの投入資金は約百億円。その九割は統一教会から出ている。残りは寄付や会費だ。文鮮明先生は『とにかく早くやれ。私が生きているうちに渡りたい』と言っているんです。これからルート上の精密な調査を十年間はやっていきたい。その費用は最低でも百億円以上はかかる。ふつうの企業なら、そんなに投資することはありえない。宗教団体だからできることだ。公共事業だから信者の理解も得られる」

資金面でも統一教会がほぼ丸がかえというわけだ。そのような事業に参加する大手ゼネコンの思惑を探りたいと思ひ、トンネル研究会の理事に名をつらねている大林組・藤田雅弘常務に問い合わせると、代わって広報室が、「藤田常務に確認したら昨年入会したそうです。それも、青函トンネルのつぎ合いで佐々保雄北大名誉教授（トンネル研究会会長）に誘われて個人的に

入っただけ。当社はトンネル研究会やその事業とまったく関係がない」と回答してきた。

ちなみに、トンネル研究会九州支部の顧問には山崎拓、麻生太郎、久間章生ら九州出身の代議士がズラリ名をつらねている。

経済利権の活路

統一教会は一九五四年、文鮮明を「創始者」に韓国・ソウルで設立された。日本の統一教会はその五年後の五九年に誕生した。教祖・文鮮明は一九二〇年、北朝鮮平安北道定州の生まれ。七十二歳。自ら「私は再臨主であり、救世主であり、真の父母として使命を果たしてきた」（統一教会機関紙「中和新聞」九十二年八月一日号）と名乗り、韓国はイエス再臨の国で共産化した北朝鮮は「サタン」の国、などと唱えてきた。

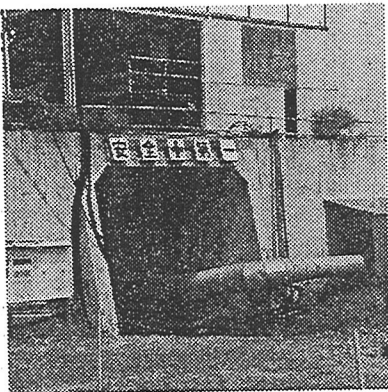
信者数はベールにつつまれている。教会側は世界で三百万人、日本でも三

十万人以上と発表しているが、実数はさだかでない。また教会の「友好団体」といわれるものに国際勝共連合、原理研究会、世界平和教授アカデミーなどがあり、いずれも文鮮明が指導的立場にいる。

国際合同結婚式は教会の「中心的宗教行事」で、六〇年以降計十三回、二万組以上のカップルが誕生してきたという。その半面、十年以上前から信者らが「悪霊払い」を語って訪問販売などで売る印鑑、高麗人参、壺、靈石などが実勢価格よりかなり高額なため、そうした「靈感商法」への批判が高まり、今日では数多くの訴訟に発展している。また大学では原理研の激しい活動が話題になった。

それにしても、統一教会と教祖・文鮮明が資金、組織面で全面的にバックアップして、トンネル事業に入れ込んでいるのはなぜか。

統一教会は現在、決して資金的に余裕があるわけではない。逆に資金難に



佐賀県西町の工事現場

直面しているといわれる。実際に、韓国のマスコミは現在、統一教会の関連企業群「統一グループ」が経営悪化に直面し、そこからどう脱しようとしているのかに関心を集めている。グループ傘下の企業や団体は二十六社だが、うち主要企業の世二重工業は八九年度に二百四十九億^円、二年後の九一年度は二百九十五億^円の赤字を計上。また高麗人参エキスを製造する一和は九〇年度で二百八十億^円、世界日報社は三百八十一億^円の赤字を計上している。加えて、日本では統一教会やその

信者を相手取った「靈感商法」への訴訟が頻発している。

韓国の有力経済紙「中央経済新聞」編集副局長の李殷允は、「統一教会の経営は宗教部分二割、産業部分八割で運営されているのではない。国際的産業活動をどう進めていくかが最大の課題だろう。その経済利権の活路が九一年十一月、文鮮明が突然に訪問した北朝鮮であり、日韓トンネルという巨大事業に向け調査事業を進めている日本ではないか」と語る。

国際的プロジェクトの可能性

トンネル研究会やハイウェイ事業団はあくまでも調査と「政策提言」に徹し、実際の工事は「国家レベルの国益、政策の問題」（前出・大江専務理事）と言う。

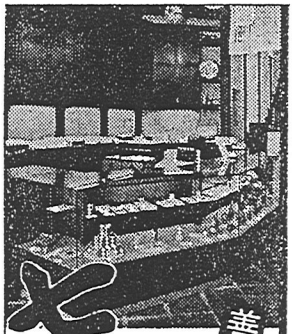
「現在、これまでの調査結果をまとめている最中で何とか近いうちに国へ出したい。（日韓トンネルについて）ある国会議員の先生は『国際関係の急変して

いるいま、日韓の話はとりあげざるを得ない』と言っている。それにアメリカの力で、十年間に四百三十兆円の公共投資という話もありますから……第四次総合計画が動いているが、その次の第五次には乗せて実現させたいと思っている」（稲田事務局長）

問題はタイミングというわけだ。しかし、そのようにしてかりにトンネル事業開始が決定したら、この事業に先鞭をつけてきた統一教会やトンネル研究会の傘下企業に技術面からも工事参加への既得権が生じるにちがいない。

その工事費用は、「（トンネル研究会設立当時、日韓トンネルの総工費は三兆円と目算されていたが、現在では二十兆円ぐらいになっている）」（「世界日報」）。日韓両国政府がたとえ前向きな姿勢を固めたとしても、二十兆円もの巨額資金の捻出は容易ではない。

また、技術的な問題は別としても、国際プロジェクトとなると、政府間の交渉や取り決め、企業の参加など、障



善光寺名物
七味唐がらし

煮物 漬物 味噌汁 うどん そば
鍋もの など

江戸後期からの長い伝統と信用を守りながら、善光寺境内で売っている「八幡屋礒五郎」の七味唐がらし。参拝の際には必ず訪れる長年のファンも多く「善光寺参りの手形」と言われております。

八幡屋礒五郎
〒380 長野県長野市大門町御高礼前
☎0262(32)3966

害が数多く生まれてくることは目に見えている。当事者たちが述べるほど先行きが甘いはずがないだろう。

その見通しをトンネル研究会の佐々会長はこう語った。

「研究会が発足する直前だったと思うが、ニューヨークで文鮮明先生に会った。その時、文先生は『費用のことは心配しなくていいから、計画をたてて好きなようにやって下さい』と言っていた。技術的には、対馬の西に柔らかな地層など難しい所もある。問題がないというのは言い過ぎだが、現代の技術なら可能です。トンネル工事そのものの工期は十五年か、長くて二十年。

国の許可は大丈夫でしょう。今年から来年には降りるだろう。私は二〇一〇年頃には完成すると見ている」

さらに統一教会については、「私は内村鑑三先生の最後の弟子で、無教会のクリスチャンです。統一教会とはちがうし、もし改宗しなければいけないといわれたら、(会長に就くのは)やめたかもしれない」

かなり楽観的だという印象は否めない。さらに技術面をクリアしたとしても、それと国の公共事業政策の決定は別問題だ。それを見越してか、国際ハイウェイ建設事業団の梶栗玄太郎理事長は六月の事業団総会で、「今年から

来年にかけて、議員連盟の創立ならびに国会において特別立法化をめざし、官民一体の第三セクター方式で組織を確立していきたい」と意気込んだ。

金丸や竹下との関係

ところが、韓国では文鮮明の政治力をかなり冷ややかに見ている。

「国際的な流れに合わせて変身するのが文鮮明。だいたい以前は日本の公明党・創価学会の池田大作のように見えたが、最近そんな力はない。韓国よりもむしろ日本の実力者が彼を認めているのではないか」(前出李殷允編集副局長) さらに二十七年間にわたり文鮮明と

統一教会の実態を追い続けてきた国際宗教問題研究所の卓明煥所長が語る。

「統一教会は『宗産(宗教と産業)複合体』と言われる教団ですが、両方とも資金シフトを起こしているのです。その運営はかなり厳しいはずですが、しかし、文鮮明は宗教を表の顔に、裏で経済、政治で国際的な『支配者』になろうという野望を持っている。経済とは利権だ。日本の実力政治家は文鮮明に警戒心がうすいのではないかと」

文鮮明は三月末に来日し、自民党の金丸信副総裁と長時間にわたり会談した。双方がどんな思惑で何を話し合ったかは不明だが、日本政治の最高実力

者ともいわれる金丸が、外国人の宗教指導者とじっくり話し合うこと自体、異例である。

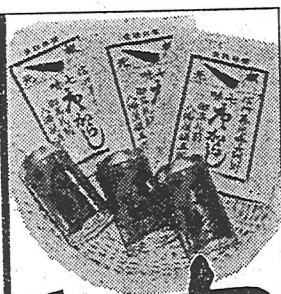
一方、竹下元首相は今年五月六日、北京で万里全人代常務委員長と会談した際、「竹下氏が『机上のプランだが、日韓間をトンネルで結ぶ計画もある』と壮大な構想を紹介すると『素晴らしい』と(中国側が)応じるなど友好ムード一色」(日本経済新聞九二年五月七日付)と、竹下元首相が日韓トンネルを口にしているのだ。政界への根回しを既に始めているのかもしれない。

日韓トンネル研究会の梶栗理事長はあらかじめ申し入れてあった日韓トン

ネル構想への日本の態度などについての質問に文書でこう答えている(要旨)。

「現在、国の態度、理解はどうか。『提唱以来十年後の今日、国内大型プロジェクトが次々と完成する中、本構想が現実的なものであるとの実感を持ちます。(竹下元首相、盧大統領、海部元首相ら)政界のトップも理解を示している。思想的に大まかな合意を得られている。」

日本でも建設省、運輸省、道路公団、鉄道公団のOBが、このプロジェクトに参加している。また、韓国では、歴代の建設部道路局長が積極的に推進し



善光寺名物
七味唐がらし

煮物 漬物 味噌汁
鍋もの など

唐がらし、生姜、紫蘇、陣皮(みかんの皮)、山椒、胡麻、麻の実…文字通り七つの味と香りから生み出される七味唐がらし。中辛、小辛のほか、唐がらしだけの大辛も。かくし味として欠かせない香辛料です。

八幡屋礒五郎
〒380 長野県長野市大門町御高礼前
☎0262(32)3966

ている。もちろん、学者、技術者のレベルでの活発な推進運動がある。ただし、両国間には、過去の不幸な歴史があるため、現段階の民間プロジェクト推進の方が少なくとも今日まで効果的であったといえよう」

——日韓トンネル事業実現の可能性はどうか。可能なら、いつごろ、完成すると考えているのか。

「二十一世紀の遅くない時期に完成すると念願しております。もっと早く完成する可能性もあります。技術的にはまったく問題は有りません。国民全体がその気になりさえすれば、短期間で完成するでしょう」

野望の真意はどこか

九〇年五月に来日した盧大統領も日本の国会演説で、「来る世紀には東京を出発した日本の青年が玄界灘の海底トンネルを通して、ソウルの親友といっしょに北京とモスクワに、パリとロンドンに、大陸を結び世界をひとつに

つなく友情に満ちた旅行を楽しむ時代を共に創造しましょう」と演説した。そしてこれを受け、海部前首相も九一年一月、青瓦台の盧大統領主宰の晩餐会で、「盧大統領の国会演説に私もまったく同感」と賛意を表明していた。

事業団の機関誌「国際ハイウェイレポート2」にはハイウェイ構想への文鮮明のこのような発言が載っている。「日本は周知のように、アジアの中心国家になっていきます。今後、アジアの諸国が相互に連結されるようになった場合、日本は過去の侵略戦争国家としての「烙印」や、エコノミック・アニマルの汚名をどう克服するかが、国家創立以来の重大問題となってくるでしょう。この点日本は、アジアが連合して一つのブロックを形成するような時代になれば、これと共同し歩調を合わせる以外に、世界に歓迎される道はないと思います。

中国大陸から韓半島を縦断し、トンネルあるいは橋梁で日本列島を連結して、日本を縦断する一大国際ハイウェイが実現されたとしたらどうでしょう。アジア諸国はハイウェイで連絡され、一体化することができそうです」これは早い話、「エコノミック・アニマル」の日本に日韓トンネルへの参加を迫ったブラフととれなくもない。文鮮明は日韓トンネルへの「野望」を見果てぬ夢で終わらせないために、どんな手を打つのだろうか。少なくとも日本では、二十兆円という巨大公共プロジェクトに一宗教法人が主体となって先鞭をつけた例はないのである。

もちろん、個人の信仰の自由は守られなければならない。しかし、公共事業は国民の血税の問題である。一宗教法人が深く関わるプロジェクトに対して、十分な論議もなく首相経験者や実力政治家たちが積極的姿勢を示すことには疑念を感じざるをえない。たとえば、その実現の可能性が現時点では低いとしても、おのずと話は異なるはずである。

(文中敬称略)

清水幾太郎著作集

講談社版全19巻

●責任編集 清水禮子

◆造本・体裁 A5判・上製/クロス装綴押し/貼面入り/本文平均400頁/口絵付/月報8頁付

わが国の思想界・言論界に
独自の鮮やかな光芒を
放ち続けた著者の思索と
行動の全貌!



第6巻

民主主義の哲学 私の読書と人生 他

第5回配本好評発売中!

定価6,000円(税別)

講談社

戦後に出版された最初の著書で、アメリカ哲学を主題とした『民主主義の哲学』、幼少年代から昭和二十年八月までを描く最初の伝記的作品『私の読書と人生』他を収録。

〈全巻編成〉 ◆日文字数は既刊です。

- 1 社会学批判序説 社会と個人
- 2 流言蜚語 青年の世界 人間の世界
- 3 社会的人間論 現代の精神 他
- 4 常識の名に於いて 心の法則 他
- 5 組織の條件 美しき行爲
- 6 民主主義の哲学 私の読書と人生 他
- 7 社会学講義
- 8 愛国心 「匿名の思想」 他
- 9 社会心理学 ジャーナリズム 他
- 10 「運動」の内外 私の心の遍歴
- 11 精神の離陸 「見落された変数」 他
- 12 現代思想
- 13 倫理学ノート
- 14 わが人生の断片
- 15 この歳月
- 16 昨日の旅 現代史の旅
- 17 戦後を疑う 「新しい戦後」 他
- 18 オークランド・ミット 私の社会学者たち
- 19 補遺 年譜 著作目録 執筆目録